５　その他の水質調査結果の概要

5.1 全窒素及び全リン

富栄養化の原因物質とされる全窒素、全リンは、河川 28 水域 32 地点、湖沼４水域８地点、海域５水域７地点で測定した。測定結果は参考資料５に示す。

(1) 河川

河川において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、浅野川下流の鞍降橋で最大値は 12 mg/L、平均値は 5.0 mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点も浅野川下流の鞍降橋で、最大値は 1.0 mg/L、平均値は 0.30 mg/L であった。

(2) 湖沼

湖沼において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、河北潟の大根布放水路前で最大値は 2.0 mg/L、平均値は 1.2 mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は、北潟湖の鹿島の森横で 0.17 mg/L、平均値が最も高かった地点は、河北潟の大根布放水路で 0.11 mg/L であった。

(3) 海域

海域において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、金沢港（甲）の泊地出口で最大値は 1.8 mg/L、平均値は 0.91 mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点も金沢港（甲）の泊地出口で、最大値は 0.14 mg/L、平均値は 0.075 mg/L であった。

5.2 特殊項目（銅、全亜鉛）

銅、全亜鉛は、梯川水系を中心に河川 12 水域 20 地点、湖沼 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料６に示す。

(1) 銅

銅の最大値が最も高かった地点は、郷谷川の主谷川合流点下流で 0.20 mg/L、平均値が最も高かった地点は、郷谷川の主谷川合流点上流及び主谷川合流点下流で 0.13 mg/L であった。

(2) 全亜鉛

全亜鉛の最大値及び平均値が最も高かった地点は郷谷川の平野橋で、最大値は 0.86 mg/L 、平均値は 0.32 mg/L であった。

5.3 その他の項目（陰イオン界面活性剤）

陰イオン界面活性剤は、河川 11 水域 11 地点、湖沼１水域１地点、海域１水域１地点で測定した。測定結果は参考資料７に示すとおり、生活排水が多く流入する御祓川下流の仙対橋で、最大値が 0.16 mg/L、平均値が 0.11 mg/L となり、他の地点より高い値を示した。

5.4 水生生物保全環境基準に係る事前調査結果

水生生物保全環境基準に係る事前調査として全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、底層溶存酸素量を測定した。測定結果は参考資料８に示す。

(1) 全亜鉛

全亜鉛は、「２　特殊項目」として全亜鉛の測定を行った地点を除き、河川 44 水域 67 地点、湖沼３水域７地点、海域 11 水域 38 地点、計 112 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は、御祓川下流の西藤橋橋で最大値は 0.15 mg/L、平均値は 0.056 mg/L であった。

(2) ノニルフェノール

ノニルフェノールは、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定したが、いずれの地点も報告下限値（0.0006 mg/L）未満であった。

(3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は、宇ノ気川下流の宇ノ気川橋で 0.012 mg/L であった。

(4) 底層溶存酸素量（底層ＤＯ）

底層溶存酸素量は、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 46 地点で測定した。最小値が最も低かった地点は、木場潟の木場潟中央で 4.5 mg/L、平均値が最も低かった地点は、河北潟の大根布放水路前の 9.1 mg/L であった。